

科学衛星

日本は、たくさんの人工衛星を打ち上げています。日本の人工衛星は、大きく科学衛星と実用衛星の2種類に分けられます。科学衛星は、地上からは観測できない天体现象の観測をしたり、地球以外の天体へ行き探査を行ったり、ロケットや人工衛星の技術を高める研究をしたりといった、研究活動を目指すとする人工衛星です。実用衛星は、気象衛星や通信衛星をはじめとして、私たちの生活に役立つ機能を持って宇宙で活動している人工衛星です。



展示場4階の科学衛星の展示コーナーでは、「おおすすめ」に始まる日本の科学衛星の歴史を知ることができます。また、X線観測衛星「てんま」の原寸大模型や、小惑星探査機「はやぶさ」を打ち上げたM-Vロケットの1/10模型なども展示しています。

この科学衛星の展示コーナーにある展示ケースに、今年の6月に一つ新しい展示品が加わりました。小惑星探査機「はやぶさ2」が小惑星リュウグウから持ち帰った岩石サンプルの形状レプリカです。原寸大のレプリカはかなり小さいですが、初代の「はやぶさ」が持ち帰った小惑星イトカワのサンプルが最大で0.2mm程度であったことを思うと、肉眼でしっかりわかるサイズのサンプルが採れたことは「はやぶさ2」の大きな成果の一つであることを実感できるでしょう。また10倍に拡大した形状レプリカでは、サンプル採取時に割れたと考えられる岩石の表面の様子を観察することができます。



リュウグウサンプルの形状レプリカ。右のレプリカは原寸大、左のレプリカは大きさを10倍に拡大したもの。実際に回収されたサンプルのうち1点を精密計測したデータから作成されたもの。

飯山 青海(科学館学芸員)

学芸員の
展示場ガイド

いろんな展示を動画で紹介する「学芸員の展示場ガイド」も、新しいホームページからアクセスしやすくなりました。ぜひご覧ください！